

福井市PTA連合会 ご質問への回答について

質問（7）学校の建て替え、合併について

ひとつの学校に通う子どもの数、あるいは、一クラスの人数は多すぎても少なすぎてもよくないと思いますが、生徒・児童の増減による、小学校、中学校の建て替え、新設、統合など今後の方向性について、お考えをお聞かせください。

【回答】

児童、生徒の数や小中一貫校など学校のあり方に応じた学校施設の建て替え、新設、統合など適切な教育環境を整えるということは、大変重要であります。児童館や公民館などとの複合化についても、マネジメントの面から考える必要があり、課題となっています。

さらに、本市の学校はそれぞれの地域と連携しており、これまでの経緯からも、統廃合や校区変更する場合には、保護者や地域の意向を十分に踏まえることも重要であると考えます。

これらのことを含め、十分に議論を深めていくために、今年度より福井市学校規模適正化検討委員会設置し、協議を行なっております。その協議の中で、地域や保護者の方々の意見をしっかりと伺いながら、子どもたちにとってどのような環境が良いのか検討していきたいと考えております。

質問（8）子どもたちの安全・安心について

子どもたちの通学路は、全て、事故なく安心して通える道であってほしいと思います。安全な通学路・横断歩道・自転車道等の整備、特に危険と思われる場所にはガードレールの設置や街灯の設置等、重大な事件・事故になる前に安全対策の強化を望みます。市の対応や取組をお聞かせください。また、保護者・住民として対策できることがあればお聞かせください。

最近是不登校の子どもたちが増えているようですが、そのような子どもたちが安心して通える施設等の対策はどのようなになっていますか。

【回答】

○通学路の安全について

本市では、通学路の安全対策の充実を図るため、平成26年から“福井市通学路安全推進会議”を設置し、PTA代表、小学校・中学校校長会代表、国・県・市の道路管理者、警察、市の交通関係機関などが、定期的に交通安全における情報交換や危険箇所の点検、対策について連携する体制を取っております。

また、昨今の新潟市や富山市における殺傷事件や地震によるブロック塀の倒壊事故を受け、平成30年7月からは、これまでの交通安全の分野に加え、警察の防犯関係所管課や市の危機管理、建築関係など防犯・防災の分野との連携を強化し、総合的な安全対策に取り組んでおります。

保護者の方や住民のみなさまには、登下校時における見守り活動や子ども110番の家（かけこみ所）の設置にご尽力をいただいておりますが、今後も一層のご協力をお願いしたいと思います。

その他、青少年育成福井民会議が主催する7月の「青少年環境浄化一斉点検」においても、通学路や公園などの安全確認とかけこみ所の点検などを行っていただいております。

○不登校の子どもたちが安心して通える施設等の対策について

各学校では、不登校の未然防止や初期対応に力を入れておりますが、不登校の子どもたちに対して、スクールカウンセラーや外部機関との連携を図り、学校への復帰支援も行っております。

本市の「不登校の子どもたちが安心して通える施設等の対策」としては、子どもたちが、体験学習や遊び等の集団活動を通して、好ましい人間関係を築き、個に応じた活動を進めながら、在籍校へ復帰出来るよう支援を行う適応指導教室「チャレンジ教室」を設置しております。

チャレンジ教室には、室長を含め4人の相談員が常駐し、子どもたちの諸活動の支援や、保護者からの相談に電話やメールで対応しています。また、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーが定期的に訪問する相談活動も行っております。

その他、通室生とその保護者、学校の担任や管理職、チャレンジ教室相談員等が定期的に支援会議を開き、通室生の実態に合わせた支援方法の確認や、福井大学の准教授を助言者に置き、チャレンジ教室の運営や支援のあり方について、研修を行っております。

質問（9）プログラミング教育について

プログラミング教育について、2020年度から小、中、高と順に必修化されていきますが、教育先進県の福井県そして福井市ではどのように取り組んでいくのでしょうか。成果を出していく方策をお知らせ下さい。

【回答】

福井市では、2017年度から小学校プログラミング教育実施に向け、準備を進めてきています。総合的な学習の時間でのカリキュラムを開発し、市独自でマイクロビットという教材を各学校18セットずつ準備する予定です。

今年度、すでに夏季休業中に教員対象の研修を実施し、10月より順次、市内の全小学校5年生に、授業を行っております。その際、福井大学とも連携し、授業のアシスタントとして、大学生に参加してもらっています。

中学校に関しては、技術・家庭科において1998年度の学習指導要領からすでにプログラミングの内容が含まれており、現在、各学校に教材を配置し、ロボットを使ったプログラミングに取り組んでおります。

今後は、高等学校での情報科の内容も加味しながら、地域の産業界を含めた様々な方々との連携を視野に入れ、プログラミング教育に関する全体計画を策定することで、これからの社会を生き抜いていく子どもたちが必要な力を付けることが出来るよう取り組んでいきたいと考えております。

質問（10）学校区について

同じ小学校に通う子どもたちが、中学校進学の際に別々の中学校に通う地区がありますが、小学校が分割されずに進学することは不可能なのでしょうか、お考えをお聞かせください。

【回答】

小中学校の学校区を変更する場合は、通学区域審議会で協議し、同意を得ることが必要になりますが、小学校単位で中学校を選択すると、地理的に、より遠い方の中学校へ通うことになる生徒も出てくるなど問題を生じるため、これまでは認められていません。

現在、学校規模適正化検討委員会を立ち上げています。適正化を検討していく中で、通学区域についても、対象となった地域については検討していきたいと考えております。

なお、福井市では、中学校区教育が平成17年度から進められており、一つの小学校が2つ、3つの中学校にまたがっている場合、連携を進めにくいという声もありましたが、現在では、複数校との連携の形が定着しており、問題なく取り組まれております。